

お受験ママの心の負荷を軽くする3つの秘訣

私立小学校受験は、子どもと保護者の皆様にとって大きなチャレンジです。この過程で感じるストレスや不安を軽減するため、以下の3つの秘訣をご紹介します。

1. 小学校受験の特殊性を理解する

小学校受験は、他の入学試験と異なり、合否基準が公表されない特殊な選抜方法です。中学・高校・大学受験にある偏差値や合格点など、目に見えて明らかな基準がまったく存在しません。試験項目も丸バツで簡単に評価できるものがペーパー試験のみであり、行動観察や絵画工作、運動考査、面接など評価基準が曖昧なものがほとんどです。そのため、不合格の要因を正確に把握することは困難です。

- 合否の理由は多岐にわたり、複合的である可能性が高い
- 学校側の選考基準や方針は非公開
- 不合格の原因を推測することはストレスの元になる可能性がある

なので、小学校受験に臨むにあたっては、親が学校研究をしっかりとて、子どもが良く評価される学校を受けることが成功の近道。つまり、子どもの優秀さではなく、子どもと学校との相性が合否の鍵を握っていることを知っておきましょう。子どもにとって最善の環境を選ぶためのプロセスだと考えると、お受験の準備も前向きに取り組めます。

大切なのは、結果に一喜一憂せず、子どもの成長過程を肯定的に捉えることです。

2. 受験結果は人生の通過点に過ぎない

小学校受験の結果が、子どもの将来を決定づけるものではありません。合格も不合格も、その人がどのように意味づけするかによって良い出来事にも悪い出来事にもなります。親が『絶対この学校に入った方が幸せになる』と思っていても、実際通う子どもにとって幸せなのかどうかはわかりません。親が必要以上に小学校受験の結果に意味づけをしないことです。子どもは大人より大抵物事をフラットに捉えられます（固定概念がないから）。子どもは不合格の事実より、不合格で大好きな両親が落ち込んでいる姿を見て、大変なショックを受けます。小学校受験に挑戦した結果、例え公立にいくことになっても、親は『無事に小学校が決まってよかったわね』と心から言える度量の大きさ、視野の広さを持ちましょう。人生はどうにでもなりますから！どうか、人生終わったような顔で子どもを見ないでください。小学校受験が親にとっては不本意な結果でも、子どもの人生は無限大の可能性を秘めています。誰よりも親である私たちが子どもの可能性を信じて接しましょう。考えていることは言葉になり、行動になります。心の底から、子どもを信じてください。

- 教育の機会は多様化しており、様々な選択肢がある
- 子どもの才能や可能性は、小学校入学後も無限に広がっている
- 失敗体験も、将来の成長につながる貴重な経験となる

子どもの長い人生において、小学校受験はほんの一瞬の出来事です。小学校受験でどんな結果が来ても大丈夫！結果に関わらず、子どもの成長を温かく見守り、支援し続けることが重要です。

3. 受験プロセスを家族の成長の機会として捉える

小学校受験という選択は、家族にとって新たな挑戦です。この経験を前向きに捉え、家族全体の成長につなげましょう。日本全体で私立小に通える子どもの数はたった1%しかいません。小学校受験を目指している時点で、地理的、経済的に恵まれた1%であることを知っておいてください。選択肢が多いことは、豊かさです。必ずしも必要ではない小学校受験をすることで、就学環境の選択肢が増える、この事自体に価値があります。そして、幼児教育のゴールデンエイジをお受験準備に費やす事は子どもにとって絶対的に良い影響があります。塾への缶詰めは悪影響だと思いますが、小学校受験で問われる内容は年相応に必要な経験と知恵だからです。家族でたくさんの経験を通して、お受験に備えることは子どもだけでなく、親にとっても非常に意味のある経験です。

- 受験プロセスを通じて得られた経験や学びを大切にする
- 家族で協力して乗り越えた経験を、絆を深める機会として捉える
- 子どもの個性や興味に合わせて、柔軟に今後の教育方針を考える

この経験を通じて、子どもの可能性を広げ、家族の絆を強めることができます。結果に関わらず、この過程自体が貴重な財産となります。

最後に、この受験期間中、お受験ママ自身の心身のケアも忘れずに。お受験ママが穏やかな気持ちでいられることが、子どもの安定にもつながります。親のプレッシャーは子どものプレッシャー。一緒に、この大切な時期を乗り越えていきましょう。

慶應専門お受験塾X 主宰 石勝ももこ